

イエスの決別説教：「心の満たしはどこから来るのか？」

メッセージノート 2022.6.19

ヨハネ17:20-26 ²⁰ わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。²¹ 父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください。あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです。²² またわたしは、あなたが下さった栄光を彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。²³ わたしは彼らのうちにて、あなたはわたしのうちにおられます。彼らが完全に一つになるためです。また、あなたがわたしを遣わされたことと、わたしを愛されたように彼らも愛されたことを、世が知るためです。²⁴ 父よ。わたしに下さったものについてお願いします。わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください。わたしの栄光を、彼らが見るためです。世界の基が据えられる前からわたしを愛されたゆえに、あなたがわたしに下さった栄光を。²⁵ 正しい父よ。この世はあなたを知りませんが、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知っています。²⁶ わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。あなたがわたしを愛して下さった愛が彼らのうちにあり、わたしも彼らのうちにいるようにするためです。」

はじめに

- 最後の晩餐(13-17 章)は、イエスの洗足という愛情表現で始まり、そして、世界の基が据えられる前から存在している永遠の愛を提供し続けるという約束で終わる。イエスは、最後の最後まで弟子たちに、愛を注がれた。
- 最後の晩餐は、イエスの祈りをもって終わるが、祈りの最後は、弟子たちの働きによって神の愛を知るようになるクリスチャンたちのための祈りである。それは、私たちのための祈りであるが、私たちが愛で満たされるために祈られた。

どんな愛か 父とイエスが、一つであるような関係というが、それはどんな関係なのだろうか？

- この世界が創造される遙か前から存在していた三位一体の神(父、子、聖霊)の愛の関係性に繋がること。
- 『ヨハネによる福音書』は、他の福音書と比較にならないほど多く、愛の関係(神と他人との)について語られている。
- 『ヨハネの手紙』も「愛の手紙」と呼ばれ、「互いに愛し合いなさい」というメッセージが繰り返し語られている。それは、イエスが最後の晩餐で「新しい戒め」として語られたことであった。

1. 愛の動機において一致

- 「あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように」(21)、「わたしたちが一つであるように」(22)とは、クリスチャンが皆同じになれということではない。聖書が「一致」という場合、多様性における心の一致のこと。それは、体の各器官が各々異なりつつも、全体として統一を保っているようにと言われる。それは、互いに尊重し合う関係である。
- 相手の最善を願って仕える姿勢。それは「三位一体」の神の原型であり、その「かたち」に似せて人は造られた。この概念を最初に言語化したダマスコのヨハネは、この愛し仕え合う関係を「バリー・コリーシス」、隣で仕え合う関係とした。この言葉は、「コロオグラフィ」(美しい振る舞い)の源語となる。愛の奉仕こそ、人間にとって最も人間らしい姿である。
- 心の満たしは、成功体験や人の賞賛によっては得られない。神と人の人格的交わり(繋がりに)から来る。

2. 完全に利他的な愛をどこで見つけるのか？

- しかし、私たちの世界では、愛ほど誤解されてきた概念はない。「惜しみなく愛は奪う」と、有島武郎は述べ、愛さえも人間の本能から自由ではなく、彼は「他者への愛とエゴイズムの対立」に苦しみ、結局、純粋な利他的などないという結論に行き着き、人妻と駆け落ちし、自殺してしまう。
- 「有島君の棄教の結果として、彼の心中深い所に大きな空虚が出来た。彼はこの空虚を充たそうと苦心した。彼は神に依らず、キリストその他のいわゆる神の人に依らずに、自分の力でこの空虚を充たそうとした。これが彼の苦悶が存した所、

彼の奮闘努力はここに在ったと思う。しかしながら、有島君が如何に偉大であっても、自分の力でこの空虚を充たすことは出来なかった。それだけではない。充たそうと努めれば努めるほど、この空虚が広がった。彼は種々の手段を試みた。著作を試みた。共産主義を試みた。そして多くの人、殊に多くの青年男女の渴仰を得て、幾分なりともこの空虚を充たし得たと思つたであろう。しかしながら、彼は人の賞賛ぐらいで満足できる人ではなかった。彼は社会に名を揚げて、ますます孤独寂寥の人となった。彼は終に人生を憎むに至った。」(『背教者としての有島武郎氏』内村鑑三)

- ・ 内村は、有島が、神によってしか満たし得ないものを自力で満たそうとして失敗し、また、自の命が自分一人のものと考え、神、人類、国家、友人と共に分かち合うのを忘れたという。「愛があると言えるような者は、偽善者である」と有島は言った。それは確かであるが、それだけでは、何も生まれない。だからここでイエスは、祈っているのではないか？心の貧しさを自覚し、神に求め、満たしていただくのが基督者だ。

3. 赦し合う愛

- ・ 初代教会が、多くの問題にもかかわらず、爆発的な成長を遂げたのは、愛し合い赦し合う関係にあった。彼らは、問題を隠さず、正直に神に、そして信者同士で向かい合った。その過程で、赦し合い、助け合う共同体が生まれていった。
 - a. 原始共産制：信者たちは(バルナバラ)、持ち物を売り教会に献金し、皆に平等に分配された。しかし、アナニヤとサツピラという夫婦は、偽って申告した結果、神の裁きが二人に下る(使徒4-5章)。しかし、それでも真剣に生きようとする姿勢は、人々の心を惹きつけた。人々は、本物(authentic life)を求めている。

使徒 5:13-14¹³ ほかの者はだれ一人、あえて仲間に加わろうとはしなかった。しかし、民衆は彼らを称賛していた。¹⁴ そして、多くの男女が主を信じ、その数はますます増えていった。
 - b. 食事の配給で、ギリシャ語を話す未亡人たちが、ヘブル語を話す未亡人たちより冷遇されるという問題が起こった時、この問題をごまかさず、7人の執事を選任して解決に当たると、教会に加わる人がもっと増えていった(使徒 6:1-7)。
- ・ この最後の晩餐のイエスの祈りの後、弟子たちがイエスと再会するのは、復活後である。その時、イエスは、「平安があるように」と言って部屋に入って来られた。それは弟子たちにとって、どんな意味があっただろうか？
 - a. ユダヤ当局者を恐れていたことは疑えないが、それ以上に彼らの心を苦しめていたのは、自己保身のために信仰を捨て、主を裏切ったことだろう。弟子たちには、主に会わせる顔がなく、深く後悔していた。

ヨハネ 20:19-23¹⁹ 同じ日曜日の夕方のことです。弟子たちは、ユダヤ人を恐れて戸にしっかりかぎをかけ、肩を寄せ合うようにして集まっていました。その時、突然イエスが一同の中にお立ちになったのです。「平安があるように。」イエスはまず、こうあいさつされてから、²⁰ 手とわき腹をお見せになりました。主を見た弟子たちの喜びは、どれほどだったでしょう。²¹ イエスはもう一度言われました。「平安があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わします。」²² そして一同に息を吹きかけ、また言われました。「聖霊を受けなさい。²³ あなたがたが赦すなら、だれの罪も赦されます。あなたがたが赦さない罪は赦されません。」

➤ このイエスの言葉で、どれほど彼らの心は解放感を味わったことだろう！イエスは、二度も「平安があるように」と言われたのは、弟子への配慮。平安とは、新約聖書では、赦しの恵みと、それに伴う平安という意味である。
 - b. イエスがここで強調されたのは、裏切った弟子たちのことを恨むどころか、変わらぬ愛で赦し、受け入れているということだった。そして、その赦しの愛を弟子同士だけでなく、隣人、そして、外国においても提供することだった。それこそが、神の形に似せて造られた人間のあるべき姿である。人は、この関係の回復に、人間性の回復と心の満たしを経験する。

➤ 問題を正直に、具体的に神に、また人の前に認めるところから回復のプロセスは始まる。cf. ヤコブのベヌエルのように

まとめ

1. あなたは、この神の赦しの愛を受け取ったか？また、受け取り続けているか？最近は、いつ受け取ったか？
2. あなたが、この赦しの愛を提供すべき相手は、誰だろうか？